



# 長野南高校野球部通信



第37号 2025年12月27日(土) 野球部監督 丸山智大

# 新千一ム 成績

### R7(7月~11月) 打者成績

### R7(7月~11月) 投手成績

## ＜チーム成績から見えた課題と、これからに向けて＞

新チーム成績を見ると、チーム打率は。278と、高校野球の中でも決して低い数字ではなく、個々の選手が「打てていないチーム」ではないことがわかります。日々の練習の中で積み重ねてきたスイングや努力が、結果として表れている部分だと思います。でもその一方で、ヒット数に対して得点が伸び切らなかつたことは、今シーズンの大きな課題だったと思います。「出塁はできているのに、ホームまで返し切れない。」「チャンスは作れているのに、一本が遠い。」数字を見れば見るほど、「あと一つ」「あと一打」の重さを感じさせられる成績です。強い当たりがなくても点は取れるという野球の本質を、チーム全体で徹底しきれなかつたことが、得点力不足につながったと感じました。また、四死球が少ないとからも、相手投手を苦しめる粘り強さや、ボールを見極める意識に課題が残ったと思います。

早いカウントで勝負にいく積極性は武器である一方、攻撃が淡白になり、相手に流れを渡してしまう要因にもなってしまいました。「打ちにいく勇気」と「待つ勇気」を身につけることが今後の成長に欠かせないと思います。ヒット一本で終わらせず、選手一人ひとりが「もう一つ先へ」という意識が、得点力を大きく変えていきます。

「勝ち切るための野球」「一点を取り切る野球」にするためにはこのオフシーズンで積み重ねる一振り、一走り、一声が、つながっていくはずです。たくさん悔しさが残った分だけ、このチームには伸びしろがたくさんあります。個人の成績だけで終わらせず、全員で一点を取りに行く野球へ。この成績は、そのためのスタートラインだと思います。

マネージャー 吉村 咲良

## ＜監督より＞

打撃成績と投手成績の集計はすべてマネージャーに任せており、毎試合終わったら、数値を入力する作業をここまでしてくれていました。そして最終的なシーズン成績が出たので、マネージャーに「成績表から読み取れることや推測できることをまとめてくれ。」とお願いをしました。

「出来ました。合っているかどうか分からぬけどどうですか？」と言われ読んでみましたが、非常に良く考察されたまとめだと感心しました。

気持ちが良い野球では勝てません。打率はもちろん大事な指標ですが、「アウトの取られ方」「塁の奪い方」が勝敗には大きく関与すると私は思っています。

新チームでは私自身の反省としても得点を挙げる采配が出来なかつたと考えています。来年は選手が必死に奪った出塁を得点に結びつけさせてあげられるよう冬期間に勉強したいです。

また、守備面では相手におこぼれで得点を与えないこと。バッテリーを中心に勝負所を守れるチームになるよう頑張りたいと思います。

選手はまずは個のベースアップは間違ひなく必要です。ただ、マネージャーが書いてくれたように最後はチームとしてです。個人で得点をとれるのはホームランのみです。全員がホームランを打てる選手を目指していたら、一生勝てません。状況に応じた打撃や守備、走塁ができるようこの冬はただがむしゃらではなく思考を深めて努力してほしいと思います。考えて行う選手は、やらなくてはいけないことが沢山ある冬になると思います。

期待しています。